

# 昭和59年度通常総会開かる

昭和59年度通常総会は、さる4月26日に開かれ、OR学会賞の授与、フェローの紹介、新会長の就任記念講演「CO<sub>2</sub>について」が行なわれました。以下に総会の議事録と事業報告、収支決算報告、事業計画、予算をお知らせします。

## 昭和59年度通常総会議事録

1. 日 時 昭和59年4月26日(木) 15:00~17:00
2. 場 所 学士会館分館6号室  
(東京都文京区本郷3-7-1)
3. 出席者 横山勝義他816名(内委任状による出席763名) ただし会員総数2045名(1/3は682名)
4. 議事の経過および結果

上記のとおり出席者が定数に達したので、定款第28条により横山会長が議長となり、議事録署名人に渡辺忠、今野浩の両氏を選出して議事に入った。

[第1号議案 昭和58年度事業報告の件]

若山理事より別紙昭和58年度事業報告書にもとづき説明があり承認された。

[第2号議案 昭和58年度決算報告の件]

伏見理事より別紙昭和58年度決算報告書にもとづき説明があり、この報告に関し八巻監事より監査報告がなされ承認された。

[第3号議案 昭和59年度事業計画の件]

渡辺理事より別紙昭和59年度事業計画案について説明があり原案どおり承認された。

[第4号議案 昭和59年度予算案の件]

伏見理事より別紙昭和59年度予算案について説明があり原案どおり承認された。

[第5号議案 昭和59年度および60年度役員選任の件]

定款第15条に従い、昭和59年度および60年度役員候補者が別紙のとおり発表され満場一致で選任された。

[第6号議案 昭和59年度および60年度評議員選任の件]

定款第19条に従い、昭和59年度および60年度評議員候補者が別紙のとおり発表され、満場一致で選任された。

以上で議案の審議を終了した。

### 5. 表彰ならびにフェロー紹介

日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞、普及賞、実施賞、事例研究奨励賞の受賞者発表ならびに表彰に入った。三根表彰委員長ならびに刀根文献賞選考小委員長・小田部表彰副委員長より選考経過の説明があり、会長より第12回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞

が河合一氏に、第9回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞は、西野吉次氏と日本国有鉄道に、第8回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞は川崎製鉄株式会社、第4回事例研究奨励賞は、石井博司、飛岡利明、中野一夫の各氏、松本信二、三根直人の両氏、小西洋三、小林靖、三留和幸の各氏、腰塚武志氏にそれぞれ授与された。ひきつづき、新フェローとして青木兼一、加瀬滋男、三浦良一、本告光男、渡辺浩の各氏が紹介され会長よりフェロー賞が贈呈された。以上により総会の議事を終了し議長は閉会を宣した。

上記議決を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。昭和59年4月26日

社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会  
昭和59年度通常総会 議長 横山 勝義  
議事録署名人 渡辺 忠  
" 今野 浩

## 昭和58年度事業報告書

### I 事業の状況

#### 1. 研究発表会

(1) 3月28日、29日の両日、広島大学において、第53回研究発表会を開催し、3月30日には、東洋工業㈱宇品工場を見学した。

特別テーマ 実践的OR—生産性向上をめざして—  
特別講演

- 1) 当社における研究開発の課題  
山本健一(東洋工業)
- 2) VLSI アルゴリズムの研究動向  
吉田典可(広島大)

発表件数	122件
特別テーマ	14件
一般発表	96件
部会報告	12件(ペーパー・フェア)
参加者数	299名

(2) 10月26日、27日の両日、工学院大学において、第54回研究発表会を開催し、10月28日には、国際電信電話㈱・東京ガス㈱を見学した。

特別テーマ 交通とコミュニケーション

部会・グループ報告 7件(ペーパー・フェア)

特別講演

問題提起セッション 1件

1) 人工知能ロボット 渡辺 茂(都立工科短大)

参加者数 328名

2) 流体数学の発想法 今井 功(工学院大)

2. シンポジウム

発表件数 87件

10月25日工学院大学において第11回シンポジウム「交通とコミュニケーション」を開催した。参加者数は40名。

特別テーマ 6件

3. 研究部会活動(表1)

一般発表 73件

表1 研究部会・研究グループ終了, 中間報告

\*印は研究部会終了を示す

部会名	主幹 査事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
*数理計画法 (関 東)	小 島 政 和 (東工大) 福 田 公 明 (東工大)	76名	12回	数理計画法の定式化, 理論, 応用, およびアルゴリズムの提案, 効率化(コード開発を含む)等の研究を行なった。部会は原則として個々の研究者による最新の研究成果の報告の場とし, 参加者との討議を通じて研究内容をさらに豊かにした。	統計数理研究所
*数理計画法 (関 西)	青 沼 龍 雄 (神戸商大) 石 堂 一 成 (三菱重工)	40名	9回	主に関西在住約50名の数理計画の理論研究者, 実務家, 企業人が月1回の割合で会合をもち, 理論的成果, および応用事例に関する研究情報の交換を行ってきた。また, 年1回の数理計画シンポジウムの開催と運営に関するコミュニケーションの場としての役割を果たした。58年10月には関西支部全会員向けの一般講演会の開催, 11月には, 第4回MPシンポジウム神戸の開催の支援を行なった。研究会におけるテーマの選択では, 関連隣接学会で活躍されている方の研究や成果にも積極的に目を向けてとり入れるように心がけた。	京大会館 神戸市勤労会館 住友ビル
*ビジネスゲーム	村 山 乾 一 (追手門学院大) 森 健 一 (大阪府大)	62名	6回	ビジネスゲームを数多く実際に体験し, その欠陥を分析し, 新しいゲームを開発し, 経営教育や政策研究の体系化を図ろうとするものであるが, 経営戦略やトップの政策決定の構造を明らかにし, 2, 3のゲームを開発した。	中央電気クラブ
*エネルギーモデル	小 川 洋 (千葉工大) 小 野 勝 章 (小野事務所)	5名		昨年度において議論されたエネルギーにおける種々の問題点を整理, 集約する予定であったが, 世界情勢からみて集約の方向を急いで絞りがたいとの判断に至り, 実質的な活動に移行せずに終わった。	
*リスクマネジメント・システム	佐 伯 胖 (東京大) 小 岩 明 (社会環境システム研)	22名	16回	米国のVanderbilt大と筑波大で企画された“A Comparative Study of Risk Management in the U.S. and Japan”に参画し, 両国のTechnological Riskについて研究した。この研究の結果は59年10月に筑波大で日米合同ワークショップに報告される。この研究部会の成果は, 同報告の後にOR誌に発表する予定である。	社会環境システム研究所

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
*待ち行列システム	橋 田 温 (電電公社) 川 島 幸之助 (電電公社)	38名	10回	通信網, 計算機, 運輸交通, 設備貯蔵などの確率システムに対する待ち行列手法の応用と待ち行列理論の研究・整理・体系化を行なった。 例会では, (1) 研究成果の発表と討論による内容の深化, (2) 特定テーマのサーベイの発表と質疑応答による参加者の知識の増大を図った。	東京工業大学
OR/MSとシステムマネジメント	山 田 善 靖 (産能大) 根 本 忠 明 (青山学院大)	25名	21回	OR/MSの考え方, あるいはOR/MSによる問題解決方法を用いて企業経営における意思決定を改善し, 経営システムを, より有効に機能させる方法を検討している。そのためOR/MSの考え方アプローチの特性を明らかにしマネジャーの心理, 経営の意思決定, 組織文化の形成方法等との関係を検討する。	東京工業大学
第三世界とマイコン	森 口 繁 一 (東京電機大) 横 井 満 (工学院大) 小田部 齊 (東亜燃料)	17名	11回	人類44億人の3/4を占める第三世界の発展を主軸とする世界経済の繁栄のシナリオを描く。次に, このシナリオの実現のために, マイコンの果すべき役割を考え, 社会に提言することを目的として研究活動を行なっている。	東亜燃料工業
確率モデルとその応用	小和田 正 (工工大) 澤 木 勝 茂 (南山大)	14名	10回	本年度は特に信頼性モデルに関する話題を多くし, 信頼性理論の展望などもとり入れるように努めた。理論として残された問題の整理および現実のモデルに対する適用上の問題点について議論した。	名古屋工業大学
未来分析	小 島 光 造 (小野事務所) 小 岩 明 (社会環境システム研)	39名	11回	ORの最大の弱点は, 社会経済, 国際問題を対象にした場合といわれている。これが, 「米国はベトナム戦争でORを使ったから負けた」と言わしめる所以のものでもある。このような弱点を克服するために新たなメソロジーを確立しようと活動を進めた。	東京都勤労福祉会館
数理計画法(九州)	古 川 長 太 (九州大) 岩 本 誠 一 (九州大)	21名	6回	(1) 非線形アルゴリズム, (2) 無限次元上の数理計画, (3) 多目的計画, (4) 制御理論・経営計画への応用, (5) 厚生経済学における数理計画, (6) ゲーム理論との関係, (7) 動的計画法について研究を行なった。	九州大学
信頼性保全性	阿 部 俊 一 (青山学院大) 鳩 山 由紀夫 (専修大)	24名	9回	信頼性保全性に関連した新しい確率モデルや統計技法の開発, 実際問題の解決, 企業の実務担当者と大学の研究者との相互交流等を当面の目標として, 毎月1回のペースで研究会を開催している。	東京工業大学

部 会 名	主 査 事 幹 事	メンバー	開催 回数	内 容	場 所
現場のOR教育	榎 本 久 徳 (中部電力) 上 田 恭 嗣 (三菱自動車)	9名	11回	パーソナル・コンピュータを利用したOR教育の有効性を検証するため、線形計画法、予測、在庫管理、待ち合せ、多変量解析の一部について、利用分野の抽出、問題の記述の方法、パソコンの処理方法について検討し、プログラムの作成、テキストの作成について検討を進めている。	中部電力
意思決定のための会計情報	伏 見 多 美 雄 (慶応義塾大) 山 口 俊 和 (東京理科大)	19名	7回	経営意思決定への役立ちという視点から伝統的な会計システムを見直し、コンピュータによるデジジョンサポート・システムへの対応も考慮しながら経営者・管理者の計画活動を効果的にサポートする会計情報のあり方を考えている。	慶応大ビジネス・スクール
*政策科学	末 内 潔 (三菱電機) 片 山 隆 仁 (防衛庁)	22名	7回	「政策科学の考え方、およびその分析方法について研究し、その成果を実際の意思決定の場に活用すること」を目的として、文献、資料、現実の社会動向、意思決定の実際面などについて研究・討論を行なった。	三菱総合研究所
*交通問題	矢 部 真 (工学院大) 八 戸 英 夫 (工学院大)	18名	11回	単なる交通分野論ではなく、ユーザーのニーズに応えるべく、輸送の起終点間のトータルな質、信頼性、そして、価格等に着眼して、広汎な交通関係者からヒアリングを行ない、これからの交通政策、交通体系のあり方を研究した。	東洋経済新報社
経営	上 田 亀 之 助 (上田イノベーション研) 樋 爪 徹 (山之内製薬)	20名	12回	社会的有機経一体の1つである企業等の経営とは：メタボリズム(新陳代謝)とホメオスタシス(恒常性の維持)・よき伝統の保守・創新・資源の活用・環境への積極的で適正な適応等を可能にするオペレーションであり、これについて研究している。	東京都勤労福祉会館
予測と周辺課題	西 野 吉 次 (早稲田大) 浪 平 博 人 (ブリヂストンタイヤ)	14名	2回	過去3年間におよぶ研究活動の成果として、TIMSの予測文献の抄訳を完成し、学会員に利用可能な形にした。3～4カ月に1回集まり、その後の新しい経験、話題を交換する形で会を続けている。	早稲田大学 システム科学研究所
クリアトロンについての数学的研究	三重野 博 司 (東京理科大) 広 内 哲 夫 (文教大)	5名	4回	創造の形而上学的研究は少なくないが、科学的に研究しているものは皆無に近い。創造の概念形成の再構築からはじめ、クリアトロンを様相の論理で示すことを研究中である。	東京理科大学
DP	小田中 敏 男 (都立工科大) 蔵 野 正 美 (千葉大)	13名	5回	理論面ではPパラメトリックマルコフ過程(2件)、計算面では在庫政策(1件)、アルゴリズム(1件)、応用面(4件)について検討した。	日本科学技術連盟

4. 普及活動 (1) 定例講演会(表2)

表 2

開催年月	テ	マ	講 師	参加人数	開催地区
58年7月	OR私観		刀 根 薫	39名	九州
"	予測と統計モデル		赤 池 弘 次	49名	本部
"	事務部門のサークル活動と目標管理		長 町 三 生	51名	中国・四国
12月	「目で見える計画」の手法—GERTの実用化		石 堂 一 成	44名	関西
59年1月	コーポレートカルチャーと組織の情報処理		野 中 郁次郎	12名	本部
2月	ORのモデルを巡って		刀 根 薫	26名	中部
"	コンピュータ・ソフトウェアの法的保護 —現状と将来の課題—		高 石 義 一	8名	本部

(2) モニター制度

昭和55年度より、OR誌をはじめ研究発表会、シンポジウムその他学会活動に対する会員の要望を広く把握するため、モニター制度を運用している。今年度は第7期モニター(58年6月～58年11月)として26名、第8期モニター(58年12月～59年5月)として31名の方々をお願いし、毎月、アンケートに回答していただいた。また、57年12月より、会員から毎月若干名を選びその月のアンケートに答えてもらうようにした。さらに、研究発表会時には、モニター会議を開催し、各モニターから積極的、かつ建設的な意見を集めることができた。これらは、学会活動に有効利用されている。

(3) 第4回ORセミナー

「ORマンと情報処理技術者のための『乱数』講座」を昭和58年11月24日、25日の両日、渋谷政昭教授(慶応義塾大学)伏見正則助教授(東京大学)の両氏を講師として開催した。参加者数は19名であった。

5. 刊行物

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol. 28 No. 3 から Vol. 29 No. 2 まで12号(本文714ページ)を発行した。各号は特集を主とし、他にトップの視点、連載講座、事例研究、解説、フォーラム、書評、文献紹介、部会報告等を掲載した。特集のテーマは次のとおりであった。

Vol. 28 No. 3 「スーパーコンピュータ」、同No. 4 「行政改革」、同No. 5 「建設のOR」、同No. 6 「知識工学」、同No. 7 「消費行動の追跡」同No. 8 「経営計画」同No. 9 「確率」、同No. 10 「経営意思決定と会計情報」、同No. 11 「研究評価」、同No. 12

「女性OR研究家」、Vol. 29 No. 1 「これからのOR」、同No. 2 「ゲーミング・シミュレーション」

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌(Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol. 26 No. 1 から No. 4 (369ページ)を発行した。本年度の投稿論文は84編(再投稿39編を含む)で掲載論文は21編であった。

(3) 研究発表会アブストラクト集

春・秋研究発表会のアブストラクト集を発行した。

(4) 報文集

「地理的情報の処理に関する基本アルゴリズム」(T-83-1)を発行した。

(5) 「OR事例集」を編集刊行した。

6. 国際協力

(1) アジア太平洋地域のIFORSメンバーを対象に、AFORS(仮称)を設立すべく、手紙などによる連絡をはじめた。

(2) IFORSが発行するIAOR(International Abstracts in Operations Research)誌の編集発行に協力し、日本の文献抄録、53編を送付するとともに、IAOR誌のVol. 26 No. 1～3, Vol. 27, No. 1～3の国内頒布に協力した。

(3) 第10回国際OR会議が米国ワシントン市で開催されるのを機に「米国におけるORの実践」視察団派遣の計画を進め、カリフォルニア大学での研修、IFORS参加を軸としたスケジュールのもとに参加者の募集をはじめた。

7. 支部活動

各支部ごとに表3のとおり活動した。

表3 支部活動報告書

	北海道	東北	中部	関西	中国・四国	九州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 役員会 1回 幹事会 5回	支部総会 1回 運営委員会 2回
研究会		5回	6回	応用確率論 4回 経営科学文献情報検索 10回 決定理論とその応用 9回		4回
研究グループ・研究会			確率モデルとその応用 10回 現場のOR教育 11回	数理計画法 9回 ビジネスゲーム 6回		数理計画法 6回
講演会		1回	1回	5回	2回	2回
出版			支部ニュース 9回 研究発表会アブストラクト 1回 事例研究会アブストラクト 1回			支部ニュース 5回
その他	懇親会 2回	懇親会 1回	研究発表会 1回 事例研究発表会 1回 行楽会 1回 懇親会 3回	支部大会 1回	春季研究発表会 1回 懇親会 2回	見学会 1回

8. 表彰

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞  
第12回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。  
  - An Optimal Ordering and Replacement Policy of a Markovian Deterioration System under Incomplete Observation……Part II  
Journal of the Operations Research Society of Japan Vol. 26, No. 4  
河合 一(大阪府立大学)
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞  
第9回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。  
  - 西野吉次(早稲田大学)
  - 日本国有鉄道
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞  
第8回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

- 川崎製鉄株式会社
- (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞  
第4回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。  
  - 信頼性子測のためのフォールト・ツリー手法の有効性  
オペレーションズ・リサーチ第28巻第1号  
石井博司\*・飛岡利明\*\*・中野一夫\*  
(\*構造計画研究所, \*\*日本原子力研究所)
  - 建築施工の作業計画における最適化  
オペレーションズ・リサーチ第28巻第5号  
松本信二・三根直人(清水建設)
  - 3次元 Cutting Stock 問題に対するパターン解法の評価  
日本オペレーションズ・リサーチ学会1983年度春季研究発表会アブストラクト集  
小西洋三・三留和幸・小林 靖(日立製作所)

- 任意に与えられた領域の人口推定  
日本オペレーションズ・リサーチ学会1983年度  
秋季研究会アブストラクト集

腰塚武志(筑波大学)

- (5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞  
第1回日本オペレーションズ・リサーチ学会学生  
論文賞の選考を行ない、下記に対して授与した。

- ネットワーク算法による組合せ最適化問題の効率的解法  
今井 浩(東京大学)
- 配水ネットワークの圧力制御計画に関する基礎的考察  
小川 寛(京都大学)
- Voronoi 線図の効率的構成法に関する研究  
大屋隆生(東京大学)
- ブロッキングを伴う待ち行列網の安定条件に関する研究  
庄境 誠(京都大学)
- 海上保安庁の警備・救難システムに関する評価モデルの作成  
松田不二夫(埼玉大学)

## 9. 受賞助成金推薦

昭和58年度研究助成候補者として下記のとおり推薦した。(1) 鹿島学術振興財団

- 小田中敏男(東京都立工科短期大学)

「環境システムの最適設備拡張に関する研究」

## 10. 公的活動の強化

- (1) 共通する学際分野に属する3学会、すなわち、本学会、日本経営工学会および日本品質管理学会の連係を緊密化し、この分野の学術の振興をはかるため、関連学会連絡会を再開した。
- (2) 日本学術会議第5部に、経営科学関連の学際的な専門別分野を新設することに関する要望書を、本学会、日本経営工学会および日本品質管理学会の3学会会長連名で、日本学術会議会長に提出するとともに、同会議第5部長に3学会代表が陳情した。
- (3) 日本学術会議の学協会との懇談会に出席するとともに、同会議改正法に関連した調査活動に協力した。
- (4) 工学系60学協会の連合体である日本工学会の活動に協力し同会事務研究委員会に委員を参加させた。

## 11. 会員状況(表4)

表 4

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	計
1983年2月末日	4	2,049	111	108	2,272
1983年度 入会	+ 1	+164	+ 54	+ 2	+221
1983年度 移行	正→名誉	- 1			0
	学→正		+ 35	- 35	0
1983年度 退会		-103	- 1	- 2	-106
1983年度 除名		- 43	- 4		- 47
1984年2月末日	6	2,101	125	108	2,340

  

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員
本 部	5	1273	90	68
北 海 道	0	59	0	4
東 北	0	62	1	5
中 部	1	189	10	10
関 西	0	312	17	11
中 国 四 国	0	131	5	7
九 州	0	75	2	3
合 計	6	2101	125	108

## 昭和58年度収支決算報告書

### 1. 資産の部

### 貸借対照表

昭和59年2月29日

勘定科目	科目	金額	
大科目	中科目	金	額
流動資産	現金	49,631,299	
	預金	8,000,000	
	有価証券	2,280,220	
	未収前払金	164,663	
流動資産合計			60,076,182
有形固定資産		0	
有形固定資産合計			0
資産合計			60,076,182

### 2. 負債の部

勘定科目	科目	金額	
大科目	中科目	金	額
流動負債	預り金	262,544	
	未払金	737,280	
	前受金	21,600,770	
流動負債合計			22,600,594
固定負債	退職給与引当金	7,582,388	
	敷金引当金	1,640,640	
	名簿作成引当金	1,000,000	
	国際協力引当金	3,654,792	
	記念事業引当金	1,500,000	
	表彰事業引当金	400,000	
	別途引当金	3,029,466	
固定負債合計			18,807,286
負債合計			41,407,880

### 3. 正味財産の部

勘定科目	科目	金額	
大科目	中科目	金	額
基本金	基本金		5,000,000
剰余金	次期繰越収支差額	13,668,302	
	(うち当期増加額)	(5,099,824)	



剰 余 金 合 計		13,668,302
正 味 財 産 合 計		18,668,302
負 債 お よ び 正 味 財 産 合 計		60,076,182

財 産 目 録

昭和59年2月29日

	金	額
(資産の部)		
I 流動資産		
1. 現金預金		
(1) 現金		
現金手許有高	137,449	
(2) 替貯金		
東京地方貯金局	5,142,072	
(3) 当座預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	136,643	
住友銀行白山支店	37,630	
(4) 普通預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	6,947,280	
住友銀行白山支店	5,575,433	
(5) 定期預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	15,000,000	
住友銀行白山支店	16,654,792	
2. 有価証券(リッチョー)		
日本長期信用銀行本店	8,000,000	
3. 未収金		
58年度会費外	2,280,220	
4. 前払金		
抜刷代金	164,663	60,076,182
II 有形固定資産		0
資 産 合 計		60,076,182

	金	額
(負債の部)		
I 流動負債		
1. 預り金		
職員に対する源泉所得税外	262,544	
2. 未払金		
印刷費・消耗品費外	737,280	
3. 前受金		
59年度会費前受	21,600,770	22,600,594
II 固定負債		
1. 退職給与引当金	7,582,388	
2. 敷金引当金	1,640,640	
3. 名簿作成引当金	1,000,000	
4. 国際協力引当金	3,654,792	
5. 記念事業引当金	1,500,000	

6. 表彰事業引当金		400,000	
7. 別途引当金		3,029,466	18,807,286
負債合計			41,407,880
正味財産			18,668,302

(注) 基本財産たる資産 定期預金(第一勧業銀行八重洲口支店) 5,000,000

収支計算書(昭和58年3月1日から昭和59年2月29日まで)

収支計算の部

1) 収入の部

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目				
基本財産運用収入	基本財産利息収入		287,500	287,500	0	
事業収入	会誌頒布収入		11,412,300	10,672,803	739,497	
	研究発表会収入		3,155,000	3,342,500	△ 187,500	
	講演会収入		282,500	175,000	107,500	
	講習会収入		1,350,000	490,000	860,000	
	資料等頒布収入		300,000	1,231,350	△ 931,350	
	I A O R 収入		527,000	434,000	93,000	
	E J O R 収入		70,000	70,000	0	
入会金収入	正会員入会金収入		180,000	196,800	△ 16,800	
	学生会員入会金収入		42,000	32,400	9,600	
会費収入	正会員会費収入		26,024,000	26,001,664	22,336	
	学生会員会費収入		925,000	810,000	115,000	
	賛助会員会費収入		12,635,000	11,802,500	832,500	
引当金取崩収入	退職手当引当金取崩収入		0	757,375	△ 757,375	
雑収入	広告収入		2,380,000	2,636,100	△ 256,100	
	受取利息		1,780,000	1,863,031	△ 83,031	
	名簿収入		150,000	76,500	73,500	
	雑収入		100,000	121,500	△ 21,500	
	寄付金収入		800,000	1,416,000	△ 616,000	
	O R 事例集頒布収入		0	96,840	△ 96,840	
当期収入合計			62,400,300	62,513,863	△ 113,563	
前期繰越収支差額			8,568,478	8,568,478	0	
収入合計			70,968,778	71,082,341	△ 113,563	

2) 支出の部

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目				
管理費	家賃		2,624,000	2,131,000	493,000	

事業費

共什会旅通印消修給福臨保負支租退職給敷備雜退會	器備議交通信刷耗繕料厚生利時雇賃險担手私手稅公職與引當金線入敷金引當金線入備品償却雜職金會費徵収不能	費品通費費品費當生費金料金數料課入額入額費却費金損	768,000	768,000	0
			50,000	57,400	△ 7,400
			856,000	678,073	177,927
			1,950,000	1,304,570	645,430
			1,220,000	1,010,186	209,814
			427,000	430,661	△ 3,661
			570,000	669,292	△ 99,292
			20,000	39,510	△ 19,510
			7,575,000	7,002,425	572,575
			1,320,000	979,365	340,635
			820,000	791,000	29,000
			48,600	49,000	△ 400
			32,000	39,900	△ 7,900
			110,000	96,395	13,605
			15,000	12,000	3,000
			1,000,000	1,000,000	0
			165,000	165,000	0
			71,680	71,680	0
			150,000	130,323	19,687
			0	757,375	△ 757,375
			0	1,504,800	△ 1,504,800
研 究 發 表 會 費			2,015,000	1,799,796	215,204
	開 催 費		990,000	911,400	78,600
印 刷 製 本 費			13,200,000	11,530,170	1,669,830
	機 関 誌		2,000,000	1,855,184	144,816
	論 文 誌		200,000	210,000	△ 10,000
	報 文 集		150,000	214,400	△ 64,400
	印 刷 費		800,000	1,168,839	△ 368,839
国 際 協 力 費	OR事例集刊行費		275,000	260,675	14,325
	I FORS 會費		327,600	305,388	22,212
	I AOR 購入費		70,000	63,622	6,368
	E JOR 購入費		480,000	293,600	186,400
研 究 活 動 費	講演會開催費		960,000	373,205	586,795
	講習會開催費		700,000	700,000	0
	研究部會費		2,275,000	2,275,000	0
	支 部 費		463,000	217,315	245,685
表 彰 事 業 費			750,000	596,490	153,510
會 議 交 通 費			1,298,500	860,440	438,060
旅 費 交 運 搬 費			3,360,000	3,394,823	△ 34,823
通 信 運 搬 費			1,990,000	1,268,800	721,200
諸 謝 金			7,575,000	6,552,425	1,022,575
給 料 手 當			1,560,000	1,512,000	48,000
編 集 校 正 費			700,000	620,150	79,850
消 耗 品 費			200,000	200,000	0
表 彰 事 業 引 當 金 線 入 額			500,000	500,000	0
記 念 事 業 引 當 金 線 入 額					

予備費	雑費	100,000	42,362	57,638
		1,000,000	0	1,000,000
当期支出合計		63,731,380	57,414,039	6,317,341
次期繰越収支差額		7,237,398	13,668,302	△6,430,904
支出合計		70,968,778	71,082,341	△113,563

## 昭和59年度事業計画書

長期計画の第2年度として、初年度の事業を充実発展させるとともに国際交流、関連学会との関係を重視して学会活動の振興をはかる。あわせて会員を増強し学会事務の機械化を推進して活動基盤を整備する。

### 1. 研究発表会、シンポジウム

- (1) 研究発表会は、春秋2回開催し、春季は5月16日、17日小樽商科大学において、秋季は11月3日、4日法政大学工学部において開催する。特別テーマは春季「安全とOR」、秋季「会話型のOR」とする。
- (2) シンポジウムは2回開催する。第1回は11月2日法政大学工学部で、テーマは「信頼性とOR」とし、第2回は12月5日、東京大学(交渉中)において、テーマは「地理的情報の処理に関する基本アルゴリズム」とする。

### 2. 研究部会活動

- (1) 研究部会活動は、「数理計画法(九州)」、「信頼性保全性」、「現場のOR教育」、「意思決定のための会計情報」、「OR/MSとシステムマネジメント」、「第三世界とマイコン」、「確率モデルとその応用」、「未来分析」の既設8部会の活動を推進するとともに、新たに「離散システム：主査 富沢信明(新潟大学)」、「システム最適化：主査 田畑吉雄(大阪大学)」、「決定モデルとその応用：主査 坂口実(大阪大学)」、「政策科学：主査 末内潔(中部大学)」、「交通問題：主査 矢部真(工学院大学)」が、その活動を開始する。
- (2) 新たに「数理計画：主査 田辺国土(統計数理研究所)」、「待ち行列：主査 橋田温(電電公社)」が常設部会として活動を開始する。
- (3) 研究グループは既設の「経営」、「予測とその周辺課題」、「クリアトロンについての数学的研究」[DP]が活動を継続する。

### 3. 普及活動

第5回ORセミナーを企画実施する。定例講演会、座談会、学会活動の広報等のOR普及活動に努める。またOR誌をはじめ、OR普及活動について広く意見を求め

るためのモニター制度を継続する。

### 4. 刊行物

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を12号、論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌)を4号発刊する。
- (2) 研究発表会アブストラクト集を2回発行する。
- (3) シンポジウムの予稿集を2回発行する。
- (4) 報文集を発行する。

### 5. 他学協会との交流

- (1) (社)日本経営工学会、(社)日本品質管理学会との連合大会を検討する。
- (2) 他学協会との交流を積極的に進める。

### 6. 長期計画の推進

昭和57年に、25周年を契機として策定された長期計画(5年)にもとづき、以下の事業を推進する。

- (1) 公的地位の強化
- (2) 文部省科学研究費補助金申請の支援
- (3) 学会事務のOA化
- (4) 会員増強

### 7. 国際協力

- (1) IFORS(国際OR学会連合)を通じて各国のOR学会と協力する。
- (2) 第10回国際OR会議(1984年8月6日～10日ワシントンで開催)に参加し、あわせて米国のOR実施状況視察団を派遣する。
- (3) 国内のOR文献抄録の作成を通じIAOR誌の発行に協力するとともに同誌の国内頒布を行なう。
- (4) アジア太平洋地域のIFORS加盟学会との連絡を密にする。
- (5) 「OR in Japan」を改訂する。

### 8. 支部

各支部にて研究会、講演会、見学会等の活動を行う。

### 9. 表彰

文献賞、実施賞、普及賞、事例研究奨励賞ならびに学生論文賞の昭和59年度選考を行なう。

### 10. 通常総会

通常総会は4月26日(木)東京において行なう。

## 昭和59年度予算書

収入支出の予算 (昭和59年3月1日から昭和60年2月28日まで)

### 1) 収入の部

勘 定 科 目			予 算 額	前 年 度 額	増減(△)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
基本財産運用収入	基本財産利息収入		287,500	287,500	0	
事業収入	会誌頒布収入		10,813,300	11,412,300	△ 599,000	
	研究発表会収入		3,190,000	3,155,000	35,000	
	講演会収入		457,500	282,500	175,000	
	講習会収入		725,000	1,350,000	△ 625,000	
	資料等頒布収入		600,000	300,000	300,000	
	I A O R 収入		490,000	527,000	△ 37,000	
	E J O R 収入		102,000	70,000	32,000	
	I F O R S 視察団参加費収入		24,000,000	0	24,000,000	
入会金収入	正会員入会金収入		180,000	180,000	0	
	学生会員入会金収入		42,000	42,000	0	
会費収入	正会員会費収入		27,640,000	26,024,000	1,616,000	
	学生会員会費収入		1,000,000	925,000	75,000	
	賛助会員会費収入		12,350,000	12,635,000	△ 285,000	
雑収入	広告収入		2,380,000	2,380,000	0	
	受取利息		2,270,000	1,780,000	490,000	
	名簿収入		0	150,000	△ 150,000	
	寄附金収入		0	800,000	△ 800,000	
	雑収入		100,000	100,000	0	
当期収入合計			86,627,300	62,400,300	24,227,000	
前期繰越収支差額			13,668,302	8,568,478	5,099,824	
収入合計			100,295,602	70,968,778	29,326,824	

### 2) 支出の部

勘 定 科 目			予 算 額	前 年 度 額	増減(△)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
管理費	家賃		2,840,000	2,624,000	216,000	
	共用益	賃費	916,800	768,000	148,800	
	什器備品	費	50,000	50,000	0	
	会議	費	891,000	856,000	35,000	
	旅費	通	1,806,000	1,950,000	△ 144,000	
	通信	費	1,226,000	1,220,000	6,000	
	印刷	費	476,000	427,000	49,000	
	消耗品	費	600,000	570,000	30,000	

事業費	OA化準備費	910,000	0	910,000	
	修繕	20,000	20,000	0	
	給料手当	7,785,000	7,575,000	210,000	
	福利厚生費	1,350,000	1,320,000	30,000	
	臨時雇賃金	890,000	820,000	70,000	
	保険料	49,000	48,600	400	
	負担料	40,000	32,000	8,000	
	支払手数料	110,000	110,000	0	
	租税公課	25,000	15,000	10,000	
	退職給与引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0	
	敷金引当金繰入額	181,000	165,000	16,000	
	備品償却費	0	71,680	△ 71,680	
	雑費	150,000	150,000	0	
	研究発表会費				
		開催費	1,790,000	2,015,000	△ 225,000
		印刷費	1,140,000	990,000	150,000
	印刷製本費				
		機関紙誌	13,200,000	13,200,000	0
		論文誌	2,000,000	2,000,000	0
		報文集	200,000	200,000	0
		印刷費	110,000	150,000	△ 40,000
	国際協力費				
		IFORS会費	275,000	275,000	0
		IAOR購入費	275,200	327,600	△ 52,400
		EJOR購入費	102,000	70,000	32,000
		AFORS関係費	210,000	0	210,000
		視察団派遣費	24,000,000	0	24,000,000
	研究活動費				
		講演会開催費	642,000	480,000	162,000
		講習会開催費	627,000	960,000	△ 333,000
	研究部会費	750,000	700,000	50,000	
	支部費	2,290,000	2,275,000	15,000	
	OR事例集刊行費	0	800,000	△ 800,000	
	表彰事業費	454,500	463,000	△ 8,500	
	会議費	857,000	750,000	107,000	
旅費交通費	1,186,400	1,298,500	△ 112,100		
通信運搬費	3,391,000	3,360,000	31,000		
諸謝金	1,860,000	1,990,000	△ 130,000		
給料手当	7,785,000	7,575,000	210,000		
編集校正費	1,700,000	1,560,000	140,000		
消耗品費	700,000	700,000	0		
表彰事業引当金繰入額	200,000	200,000	0		
記念事業引当金繰入額	500,000	500,000	0		
雑費	100,000	100,000	0		
予備費	1,000,000	1,000,000	0		
当期支出合計	88,660,900	63,731,380	24,929,520		
次期繰越収支差額					
	11,634,702	7,237,398	4,397,304		
支出合計	100,295,602	70,968,778	29,326,824		